

## CEFR-J に基づく英語テストのアジア言語への翻訳可能性 -リーディング・テストとライティング・テストに焦点を当てて-

### Translatability of CEFR-J-based English tests into Asian languages -Focusing on reading and writing tests-

根岸 雅史  
Masashi Negishi

東京外国語大学大学院総合国際学研究院  
Tokyo University of Foreign Studies (3-11-1, Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534, Japan)

**要旨:** 東京外国語大学のように、多言語が指導されている状況にあってはそれらの到達度がどのようなものか同じ基準で把握することは困難であった。そこで、本研究では、CEFR-J に基づく既存の英語のテストを他の言語に翻訳することを提案し、その実現可能性を検証した。具体的には、CEFR-J に基づく英語のリーディング・テストとライティング・テストを、Google 翻訳を用いて日本語・中国語・タイ語・フィリピン語に翻訳し、その後、それらの翻訳結果を母語話者に確認・修正してもらった。Google 翻訳の結果の多くは、そのまま利用に供せるといえるレベルではなかったものの、ある程度の精度を持ったものであり、テスト開発の効率化には有用であるということがわかった。Google 翻訳の結果を出発点として、テキスト中の語句の置き換えや設定の変更などを行うことで、多くのテスト項目は機能すると判断され、このアプローチの可能性を示唆するものとなった。

**Abstract:** In a situation where multiple languages are taught, such as at Tokyo University of Foreign Studies, it is difficult to grasp the achievement levels of those languages using the same criteria. In this study, we verified the feasibility of one approach of translating the existing CEFR-J-based English tests into other languages. Specifically, we translated the reading and writing CEFR-J-based English tests into Japanese, Chinese, Thai, and Filipino using Google Translate, and then asked native speakers of those languages to check and correct the translations. Although many of the results of Google Translate were not at the level of being ready to use, they were of a certain degree of accuracy and proved to be useful for streamlining test development. Starting with the results of Google Translate and replacing words in the text or changing settings, many test items were found to work, suggesting the potential of this approach.

**キーワード:** CEFR、CEFR-J、リーディング・テスト、ライティング・テスト、翻訳可能性

**Keywords:** CEFR, CEFR-J, reading tests, writing tests, translatability

#### 1. はじめに

東京外国語大学では、現在専攻語として 28 言語が指導されている。これらの言語の指導と評価は、従来独立して行われ、各言語の到達度がどのようなものか同じ基準で把握することができない状態であった。そこで、2018 年度より CEFR-J を用いて指導と評価の標準化が行われつつある。

CEFR-J は、本来 CEFR (Common European Framework of Reference) を日本の英語教育に適用するために開発されたものである(Negishi, Takada, and Tono 2013; Tono 2013; Negishi and Tono 2016)。CEFR は言語能力を Can Do descriptors により記述し、言語能力を A1, A2, B1, B2, C1, C2 の 6 つのレベルに分けている。しかしながら、日本の英語教育の文脈においては、言語能力が下に偏っているために、下のレベルの細分化と Pre-A1 の追加を行い、レベルを Pre-A1, A1.1, A1.2, A1.3, A2.1, A2.2, B1.1, B1.2, B2.1, B2.2, C1, C2

という 12 のレベルに分割した。CEFR-J プロジェクトでは、これらのレベルの言語特性やテキスト特性を分析し、それぞれの技能のテストを開発している。

東京外国語大学では、この CEFR-J を 28 の専攻語に適用しようとするプロジェクトが始まっている (Tono, 2019)。仮に言語の特性や日本語との言語距離により、卒業時の到達度が異なっても、評価の標準化を行うことで、それぞれの到達度を可視化することができる。この点に関して、CEFR (Council of Europe, 2001) には、Appendix D: The ALTE ‘Can Do’ statements に次のような記述がある (ALTE は Association of Language Testers in Europe の略である)。

The ALTE ‘Can Do’ statements are multilingual

An important aspect of the ‘Can Do’ statements is that they are multilingual, having been translated so far into 12 of the languages represented in ALTE. These languages are: Catalan, Danish, Dutch, English, Finnish, French, German, Italian, Norwegian, Portuguese, Spanish, Swedish. As language-neutral descriptions of levels of language proficiency they constitute a frame of reference to which different language exams at different levels can potentially be related. They offer the chance to demonstrate equivalences between the examination systems of ALTE members, in meaningful terms relating to the real-world language skills likely to be available to people achieving a pass in these exams. (Council of Europe, 2001:244)

つまり、どの言語にも中立的な‘Can Do’ statements を用いて、異なる言語テストを関連づけられるとしている。

ただし、評価ツールとしてのテストの開発となると、個別の言語のテストをゼロから開発するのは、膨大な費用と手間がかかる。また、そうした開発に必要な専門知識と人材が充分には蓄積されていない言語も存在するのも事実である。そこで、すでに開発の進んでいる CEFR-J の英語のテストを他の言語のテスト開発に利用できないかと考えた。

## 2. 研究

### 2.1. 用いた評価ツール

今回は、文字言語に関わる技能の評価を行うために、CEFR-J の Can Do ディスクリプタに関連づけられたリーディング・テストとライティング・テストを用いた。

リーディング・テストは、CEFR-J の Pre-A1, A1.1, A1.2, A1.3, A2.1, A2.2 の Can Do ディスクリプタ (各レベルに 2 つの Can Do ディスクリプタがあるために計 12 個) に対応する 12 項目のテストである。ライティング・テストは、CEFR-J の Pre-A1, A1.1, A1.2, A1.3, A2.1, A2.2, B1.1, B1.2 までの Can Do ディスクリプタ (各レベルに 2 つの Can Do ディスクリプタがあるために計 16 個) に対応する 16 項目のテストである。本研究において、これら下のレベルを対象とするのは、CEFR-J プロジェクトで作成が済んでいるのが、これらのレベルに対応するテストであるためである。また、東京外国語大学の英語以外の言語の学習者の多くは初学者であるということも、その理由である。それぞれのテストの構成概要は、以下の通りである。なお、これらの表の CEFR-J レベルには、CEFR-J レベルの次に数字の 1 または 2 が書かれているが、レベルの違いを表すものではない。CEFR-J で公開している Can Do ディスクリプタの表において上に書かれたものを 1 とし、下に書かれたものを 2 としている。

表 1 リーディング・テストの構成概要

CEFR-J レベル	Can Do ディスクリプタ	テスト項目概要
Pre-A1.1	口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけることができる。	語学学校の宿題で英米で親しまれている童謡『マザーグース』の詩に挿絵をつけています。下の英文を読んで、話の内容に最も合う絵を A～D の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。
Pre-A1.2	ブロック体で書かれた大文字・小文字がわかる。	地図を見ていてあなたはヨーロッパ各国の国名に興味を持ちました。国名に小文字の R がある国を A～D の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。 *大文字の A の小文字は a です。
A1.1.1	「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	あなたがカフェに入ったところ、下のような看板が目にとまりました。看板の指示を読み、あなたが取るべき適切な行動を A～E の絵の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。
A1.1.2	ファーストフードレストランの、絵や写真がついたメニューを理解し、選ぶことができる。	あなたはファーストフードレストランに来ていて、弟にハンバーガーのセットを買って帰ることにしました。下の弟の好みに最も合うものを A～D の絵の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。
A1.2.1	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。	あなたは語学研修に行ったアメリカで課外イベントに参加しようと考えています。学校の掲示板上に貼られたイベントのお知らせを読み、その内容として最も適切なものを A～D の絵の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。
A1.2.2	身近な人からの携帯メールなどによる、旅の思い出などが書かれた非常に短い簡単な近況報告を理解することができる。	あなたはイギリスに留学していた頃の友達と帰国後も SNS で近況を伝え合っています。今、Mary からの写真付きの投稿を読んでいます。メッセージに添付されている写真として最も適切なものを A～D の絵の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。
A1.3.1	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	あなたは語学学校の宿題で、旅行ガイドの記事を読んで、その内容を発表することになっています。情報の確認のために各問いに答え、A～C から一つずつ選んで記号に○をつけなさい。
A1.3.2	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	あなたは「家族の歴史」を調べて発表する課題の資料として、下の物語を読むことになりました。情報の確認のために各問いに答え、A～C から一つずつ選んで記号に○をつけなさい。

A2.1.1	簡単な語を用いて書かれた短い物語や伝記などを理解することができる。	あなたは語学学校主催の週末のサマーキャンプに参加しようと考えています。ウェブサイトの情報から何ができるかを読み取って、下にあげたすべての希望に合うキャンプを A~C から一つ選んで記号に○をつけなさい。
A2.1.2	簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探すことができる。	あなたは英語のストーリーをもとに紙芝居を作っています。5枚の絵を描きましたが、順番がバラバラになってしまいました。下のストーリーを読んで、A~Eの絵を紙芝居で見せる順番に並べ替えて、解答欄に記号で記入しなさい。
A2.2.1	簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探すことができる。	Mauritius のセカンダリ・スクールへの姉妹校訪問で、あなたはしおりを作る係を任せられました。旅行ガイドを読んで、情報の確認のために各問いに答え、A~C から一つずつ選んで記号に○をつけなさい。
A2.2.2	生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。	世界の習慣や行事をテーマにした発表会で、次の英文をもとにして発表することになりました。情報の確認のために各問いに答え、A~C から一つずつ選んで記号に○をつけなさい。

表 2 ライティング・テストの構成概要

CEFR-J レベル	Can Do ディスクリプタ	テスト項目概要
Pre-A1.1	アルファベットの大きくて、小文字、単語のつづりをブロック体で書くことができる。	あなたは来月アメリカに短期留学に行きます。選択する授業の登録をインターネットで行ったところ、大文字だけでなく、小文字での入力もするように求められました。各教科を表す小文字を書き入れなさい。
Pre-A1.2	単語のつづりを1文字ずつ発音されれば、聞いてそのとおりに書くことができる。また書いてあるものを写すことができる。	あなたはホームステイをしています。ホストマザーからフルーツの買い物を頼まれました。フルーツの名前を聞き取ってメモをしていますが、つづりが分からないので、ホストマザーが教えてくれます。6つのフルーツの名前を聞き取って英語でメモを取りなさい。
A1.1.1	住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	あなたは海外にホームステイ中です。市民図書館の利用申し込みの書類を記入しているところです。ホームステイ中の情報ではなく、 <u>日本での情報</u> を書くように言われました。与えられた <u>あなたのプロフィール</u> の情報を使って、例 (SAMPLE) にならって、書類に必要な事項を記入しなさい。

A1.1.2	自分について基本的な情報(名前、住所、家族など)を辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	あなたはイギリスの語学学校に短期留学をします。申込表に記入しなさい。与えられた<あなたのプロフィール>の情報を使って、記入をしなさい。また、辞書を使っても構いません。
A1.2.1	簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。	あなたは来月からイギリスにホームステイをします。ホストファーザーの Joeさんから、次のメールが届いています。返信メールを英語で書きなさい。
A1.2.2	簡単な語や基礎的な表現を用いて、メッセージカード(誕生日カードなど)や身近な事柄についての短いメモなどを書ける。	英語の授業でお世話になっている ALT の Chris 先生が、来週誕生日を迎えます。メッセージカードを書いて送りなさい。カードには、お祝いのことばに加えて、授業の感想や、感謝のことば、などを書きなさい。
A1.3.1	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	米国に住む友人 Nancy は日本人の生徒の週末の過ごし方を調べています。あなたに先週の日曜日にしたことについてメールで尋ねられました。辞書を使いながら、どこで、何をしたのか以下のメールの書き始めに続けて書きなさい。
A1.3.2	趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。	あなたは来月からアメリカにホームステイをします。ホストマザーの Mary から次のメールが届いています。返信メールを英語で書きなさい。
A2.1.1	日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。	あなたは今風邪で学校を休んでいます。あなたのクラスのカナダ人交換留学生 Emily が、以下のようなメールを送ってくれました。彼女のメールを読んで返信メールを下に書きなさい。その際、ワークシートの御礼と助言に従って早く風邪を治したいという気持ちを含めなさい。
A2.1.2	文と文を and, but, because などの簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、基礎的・具体的な語彙、簡単な句や文を使った簡単な英語で、日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。	あなたのクラスでは、来月から来るアメリカ人交換留学生 David のために、日本文化を紹介する冊子を作っています。事前に彼から次のような質問が来ています。日本の年賀状を 50 語程度の英語で説明する返信メールを書きなさい。
A2.2.1	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	ALT の Jack 先生から、次のメールが届きました。あなたの町についての情報を伝える 80 語程度の英文を作成して、返信しましょう。
A2.2.2	聞いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。	イギリスの友達 John から、次のメールが届きました。日本語の「～さん」の使い方について自分の感想や意見を 80 語程度の英語で書いてメールで返信しましょう。

B1.1.1	自分に直接関わりのある環境（学校、職場、地域など）での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。	以前オーストラリアのホームステイでお世話になったホストファミリーの高校生 Mary から久しぶりに手紙が届きました。現在どのような生活を送っているのか尋ねられたので、学校の授業や、クラブ活動または行事、さらに学校外での出来事を手紙に英語で書いて返送しましょう。
B1.1.2	身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、筋道を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。	カナダの友達 Emma から、次のメールが今届きました。Emma は通学途中で今は駅にいるが、台風接近で電車が完全にストップしているようです。対応の手順を 80～100 語の英語で書いてメールで返信しましょう。なお、Emma のメールに書かれている状況以外は、自分で想像して書くこと。
B1.2.1	新聞記事や映画などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を用いて、自分の意見を含めて、あらすじをまとめたり、基本的な内容を報告したりすることができる。	あなたは現在アメリカに短期留学先をしています。学校の授業のレポート課題（100 語程度）のテーマとして、あなたは日本の社会問題の 1 つである「働く時間」を選びました。次の新聞記事を見つけたので、記事のあらすじと自分の意見をまとめて、英文レポートを完成しましょう。
B1.2.2	物事の順序に従って、旅行記や自分史、身近なエピソードなどの物語文を、いくつかのパラグラフで書くことができる。また、近況を詳しく伝える個人的な手紙を書くことができる。	アメリカに住む友人の Tom から、3 年ぶりに手紙がきました。あなたはここ数年どのようなことをしていたのか教えてほしいとのこと。3 年前と比べて自分が変わったところや、最近あった印象的な出来事なども含めて、100 語程度の英語で詳しく書きましょう。

## 2.2. 研究手法

本研究では、上記のテストの英語のテキスト部分を様々なアジア言語に翻訳することを行った。翻訳を施したテストが、リーディング・テストとライティング・テストであったために、前者は主に英文リーディング・テキストが翻訳対象となり、後者は問題文の中に含まれる英文テキストが翻訳対象となった。翻訳したアジア言語は、日本語・中国語・タイ語・フィリピン語である。

本研究では、今後の省力化もにらんで、まずは Google 翻訳を利用し、その利用可能性も探った。次に、その Google 翻訳の結果の妥当性をその言語の母語話者の教員や大学院生が検討した。

## 3. 翻訳結果の検討

### 3.1. Google 翻訳の結果

Google 翻訳の結果は、いずれのテストもそのまま利用できるというような精度ではないものの、いくつかの修正を施せば、利用に供せるものであった。以下の例は、A1.2.1 のリーディング・テストの英文テキストの日本語翻訳例である。“Now we have a garden with an apple tree.”は、Google 翻訳では「これでリンゴの木がある庭ができました。」となっているが、翻訳者の翻訳では「今ではリンゴの木が 1 本ある庭があります。」となっている。おそらく自然な日本語では「今ではリンゴの木のある庭があります。」となるかもしれないが、このリーディング・テストにおいて、リンゴの本数に関わる解答を求めているために木の本数が明示されている。また、「お気軽に来店ください！」となっている部分も修正された。

### A1.2.1 リーディング・テスト



Mary Williams  
August 3 at 10:57am

Hi, everyone!

We've just moved to our new house. Now we have a garden with an apple tree. The garden is large enough to have a swimming pool and we're planning to have one next summer.

Feel free to visit us!

### Google 翻訳 (英語→日本語) の結果



メアリー・ウィリアムズ  
8月3日午前10時57分

皆さんこんにちは！

新しい家に引っ越しました。これでリンゴの木のある庭ができました。

庭はスイミングプールを設置するのに十分な大きさで、来年の夏にはプールを設置する予定です。

お気軽にご来店ください！

### 翻訳者による修正案



メアリー・ウィリアムズ  
8月3日午前10時57分

皆さんこんにちは！

新しい家に引っ越しました。今ではリンゴの木が1本ある庭があります。

庭はスイミングプールを設置するのに十分な大きさで、来年の夏にはプールを設置する予定です。

お気軽にご訪問ください！

以下、それぞれの技能ごとに、翻訳結果を検討する。

### 3.2. リーディング・テスト

リーディング・テストでは、リーディング・テキストの翻訳に関わる課題とリーディング・タスクに関わる課題とが見受けられた。

#### (1) 固有名詞

英語のテキスト中にある様々な人名や地名は、それらが英語の母語話者の人名や英語圏の地名であれば、当然のことながら、そのままではそれぞれの言語のテキストにはふさわしくないものとなった。人名は単純にはそれぞれの言語における典型的な名前にするということも考えられる(A1.3.2における「ピーター」という人名などは、日本語では「一郎」などとしてもいいだろう)。ただし、特別な意図や意味を持ってその名前が選択されていることもあり、どのような名前を選択するかは慎重な検討が必要だろう。

#### (2) 絵本

Pre-A1.1のCan Do ディスクリプタにおける「口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本」が、テストでは「英米で親しまれている童謡『マザーグース』の詩」となっている。これは指示文にあるように「英米の童謡」であるために、他の言語のテストとするには、その言語における代表的な「絵本」が選ばなければならない。

#### (3) 大文字・小文字

Pre-A1.2の文字を探す問題では、そもそもその元になったCan Do ディスクリプタの「ブロック体で書かれた大文字・小文字がわかる。」自体が、フィリピン語以外のアジア言語には当てはまらないために、単なる翻訳ではテストとして機能しない。

#### (4) 特定のテキスト・タイプの言語レベルと言語選択

A1.1.1では、カフェの入り口の看板を読むタスクとなっているが、このテストは言語によって翻訳可能性が異なった。日本語とタイ語では問題なく成立したが、中国語ではこのような看板の言語レベルがかなり高いという報告があった。また、フィリピン語では、カフェという場面では、そもそもフィリピン語が選択されずに、英語が選択されるということであった。このような言語選択の問題は、A2.1.1のサマーキャンプの情報などもフィリピン語で書かれることはないという指摘があった。

#### (5) 事物

A1.2.2では、庭にリンゴの木があるという記述があるが、これは日本語と中国語では問題なかったが、タイ語やフィリピン語では庭にリンゴの木があるというのは一般的でないために、マンゴーの木が提案された。

### 3.3. ライティング・テスト

ライティング・テストでは、リーディング・テストのように、すべての問題にまとまりのあるテキストがあるわけではない。そのため、問題点の多くは、ライティング・タスクの設定にあった。

#### (1) コミュニケーションの目的・場面・状況



Action-oriented Approach に基づく CEFR から作られた CEFR-J のテストでは、コミュニケーションの目的・場面・状況が明示されているために、テストの翻訳にあたっては、目的・場面・状況を修正しなければならない場合がある。以下が、修正が必要と思われる目的・場面・状況である。たとえば、「A1.1.2 あなたはイギリスの語学学校に短期留学をします。」というのは、日本語のテストとしては「A1.1.2 あなたは日本の語学学校に短期留学をします。」というように修正しなければならないだろう。

- Pre-A1.1 あなたは来月アメリカに短期留学に行きます。
- A1.1.2 あなたはイギリスの語学学校に短期留学をします。
- A1.2.1 あなたは来月からイギリスにホームステイをします。
- A1.1.2 英語の授業でお世話になっている ALT のクリス先生
- A1.3.1 米国に住む友人ナンシーは日本人の生徒の週末の過ごし方を調べています。
- A1.3.2 あなたは来月からアメリカにホームステイをします。ホストマザーのメアリーから次のメールが届いています。
- A2.1.1 あなたのクラスのカナダ人交換留学生エミリー
- A2.1.2 あなたのクラスでは、来月から来るアメリカ人交換留学生デイビットのために、日本文化を紹介する冊子を作っています。事前に彼から次のような質問が来ています。日本の年賀状を 50 語程度の英語で説明する返信メールを書きなさい。
- A2.2.1 ALT のジャック先生
- B1.1.1 以前オーストラリアのホームステイでお世話になったホストファミリーの高校生メアリー
- B1.1.2 カナダの友達のエマ
- B1.2.1 あなたは現在アメリカに短期留学先をしています。
- B1.1.2 アメリカに住む友人のトム

コミュニケーションの目的・場面・状況に関して、問題が生じた例は、他にもある。まず、A2.2.2 のタスクである。これはイギリスの友達からのメールに返信するというタスクである。そのメールの日本語訳は以下の通りである。

先日、日本人の友達の 1 人が、英語で私のことを「ジョンさん」と呼んでくれました。私は自分の名前を聞いたとき、少し奇妙に感じました。あなたはどのように感じますか。英語名の後に「さん」を使用しますか。  
ジョン

このタスクなどは、英語以外の言語に翻訳した場合は、設定自体が不自然になってしまう。

A1.1.1 のタスクの日本語訳は以下の通りである。

あなたは海外にホームステイ中です。市民図書館の利用申し込みの書類を記入しているところです。ホームステイ中の情報ではなく、日本での情報を書くように言われました。与えられたあなたのプロフィールの情報を使って、例 (SAMPLE) にならって、書類に必要事項を記入しなさい。

これは日本人学習者が外国語のテストを受けている場合は、機能するが、外国人が受験する日本語のテストでは、日本国外にいる状況で日本での情報を日本語学習者が日本語で書くという設定はかなり無理があることになる。これは、英語圏でのホームステイ中、図書館の利用申込書の作成の際に、日本での

情報を英語で書くというタスクなので、これを外国語としての日本語学習者で考えると、「日本でのホームステイ中、母国での情報を日本語で書く」というように、場面を変換しなければならないだろう。

また、この問題では、〈あなたのプロフィール〉が日本語で与えられているが、これらの情報は、受験者の母語に翻訳されなければならない。

## (2) 事物

Pre-A1.2 の問題では、apple, banana, watermelon, orange, cherry, kiwifruit という単語を聞き取って、英語を書く問題となっているが、これらの単語の困難度はそれぞれの言語で異なる可能性がある。たとえば、cherry が日本語で「チェリー」でなくて、「サクランボ」だった場合は、このレベルの学習者にはなじみが薄いかもかもしれない。

## (3) 文字

文字に関する問題 (Pre-A1.1) では、体系が異なるために、英語と同じ文字を用いているフィリピン語は問題が成立したが、それ以外の言語は問題自体が成立しなかった。

## (4) スタイル

英語と目標言語とのスタイルの違いもあった。たとえば、英語の手紙やメールでは、書き出しが“Dear ...,”となっていて、Google 翻訳を用いると日本語では「親愛なる…」と訳される。しかし、これは日本語の手紙やメールとしては、一般的な書き出しではないだろう。また、新聞のスタイル (B1.2.1) の違いも浮き上がった。英語の新聞を Google 翻訳で日本語に訳した場合、「ですます調」で訳されたが、日本語の新聞では「である調」が一般的だろう。したがって、これにも修正が必要となる。

## (5) 言語選択

フィリピン語では、リーディングと同様、一定のレベルより上のテキストはフィリピン語で書くことはないという指摘があった。したがって、CEFR-J のレベルが上がるほど、ライティングのタスクをフィリピン語で行う自体が不自然になってしまうようだ。ただし、SNS などのオンライン・インタラクション (Council of Europe, 2018) では、フィリピン語が選択されるということであった。

## 4. おわりに

Google 翻訳の結果は、現時点では完全ではないが、テストの翻訳の効率化のためには十分に資するものであると判断される。ただし、その結果は、必ず専門家やその言語の母語話者によって確認し、必要な修正を施さなければならない。リーディング・テストでは、テキストの翻訳には今回のアプローチはかなり有用であった。それに対して、ライティング・テストでは、場面の設定の反転などが必要だということがわかった。今回は、多言語の日本語母語話者を想定して、テストの翻訳を試みたが、これが日本語母語話者以外の受験者を想定した場合、さらなる修正が必要となることも考えられる。

CEFR-J という枠組み及びそれに基づく様々なツールは、CEFR の日本の英語教育への適応を目指して開発されている。CEFR-J に基づくテストの翻訳において明らかになった課題の多くは、英語という言語の言語類型やそれに関わる社会・文化的な特性と目標言語のそれらとの差異から生じていると考えられる。文字に関する問題 (Pre-A1.1) などはその顕著な例である。その意味では、これらの課題は、科研費基盤研究(B)「アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮した CEFR 能力記述方法の開発研究」(研究代表者：富盛伸夫)で行われている議論と深く関わるものである。

こうした方法によって多言語のテスト開発を行うことにはいくつかのメリットがある。1 つは、標準

化した熟達度テストがない言語のテスト開発の助けとなること。もう1つは、それらのテスト結果をCEFR-J (CEFR)に関連づけられること。この開発の副産物としては、それぞれの言語における言語使用の特徴が明らかになること、などである。

この研究は、まだ緒に就いたばかりであり、いくつかの課題がある。今回は、日本語・中国語・タイ語・フィリピン語のテストの翻訳のみにとどまっているが、今後はアジアの他の言語や欧州や英語以外の言語にも広げていく必要がある。レベルに関しても、CEFR-Jの下の方のレベルの検証のみにとどまっているが、上のレベルのテスト項目に適用した場合、別の課題が見つかる可能性がある。さらに、今回は、リーディングとライティングという文字言語に関する技能のテストを翻訳したが、リスニングとスピーキングという音声言語に関する技能のテストの翻訳はどうなるのかも見る必要がある。

こうした適用範囲の拡大の他に、作成したテスト項目の困難度がどのようなものかの検証も必要であろう。ある言語のテスト項目の困難度が別の言語でもそのまま維持されるとは限らないからである。

最後に、今回はGoogle翻訳の結果の検討をそれぞれ一人の母語話者に依頼したが、これも複数の母語話者での検討が必要となるであろう。ただ、こうしたいくつかの課題にもかかわらず、今回の試みは多言語のテスト開発のための新たな方法論を提供したと言えるだろう。

#### 参考文献

欧文

Council of Europe. (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

Council of Europe. (2018). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment. Companion Volume with New Descriptors*. Strasbourg: Council of Europe. (参照先：  
<https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989>)

Negishi, Masashi, Takada, Tomoko, & Tono, Yukio. (2013). A progress report on the development of the CEFR-J. In *Exploring language frameworks: Proceedings of the ALTE Kraków Conference* (pp. 135-163).

Negishi, Masashi & Tono, Yukio. (2016). An update on the CEFR-J project and its impact on English language education in Japan. *Studies in Language Testing*. 44. 113-133.

Tono, Yukio. (2019). Coming Full Circle—From CEFR to CEFR-J and back. *CEFR Journal*, 5, pp.5-17.

和文

投野由紀夫. 2013.『CAN - DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR - J ガイドブック』(大修館書店).

執筆者連絡先: negishi@tufs.ac.jp

本稿は科学研究費助成事業基盤研究 (B)「アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮した CEFR 能力記述方法の開発研究」(2018 年度—2020 年度、研究代表者 富盛伸夫、研究課題/領域番号 18H00686) の研究成果のひとつとして公開するものである。